

別紙様式 1

令和 6 年度豊浜中学校区研究推進計画

校番 (24) (豊浜中) 学校

校長名 小 山 肇

1 学校教育目標

自ら考え主体的に学び表現する児童生徒の育成
 ～ふるさとを愛し、仲間と共に未来を拓く～ (小)
 ～郷土に誇りを持ち、理想の実現をめざす～ (中)

2 目指す児童生徒像

主体的・対話的に深く学び、自らの思いを分かりやすく表現する児童生徒

3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	生きてはたらく 知識・技能	課題を解決し, 発信する力	主体的に学び, 協働する力
後期	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科に関する個別の知識や技能を身に付けることができる。 ○基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見だし, 課題解決のために見通しをもち, 情報収集, 分析をすることで, 問題を解決したり, 自分の言葉や表現方法で伝えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら学ぶことの意味や価値を認識して学習し, 粘り強く取り組んだり, 客観的に学びを振り返ったりすることができる。 ○異なる背景や価値観をもつ人々と協働することができる。
中期	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の知識・技能と関連付けたり組み合わせたりし, 知識・技能の定着を図ることができる。 ○生活や社会の様々な場面で活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見だし, 課題解決のために見通しをもち, 判断することで問題を解決したり, 教科等で学んだ表現方法で伝えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら進んで課題解決に向けて学習し, 粘り強く取り組んだり, 客観的に学びを振り返ったりすることができる。 ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら協働することができる。
前期		<ul style="list-style-type: none"> ○課題を解決するために, 見通しをもち考えることで問題を解決したり, 教科等で学んだ表現方法で伝えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に学習し, 粘り強く取り組むことができる。 ○様々な人々と自分から関わったり協力したりすることができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的・対話的に深く学び、思いを表現する児童生徒の育成
～全ての子どもが「分かる・できる」ための工夫の充実～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区では、「主体的・対話的に深く学び、思いを表現する児童生徒の育成」という研究テーマを設定し、ICTの効果的な活用を通じた学習指導の工夫を行うことで、児童生徒同士が関わり合う授業づくりの研修を進めてきた。

小中合同で本中学校区の児童生徒の課題を改めて明らかにし、育成を目指す資質・能力等を見直し、各教科等でどのように育成していくか話し合いながら、個別最適な学びの視点をもった9年間の指導計画を立ててきた。昨年度は、広島大学大学院社会科学研究科の松浦武人教授、広島県立教育センターの砂岡良祐指導主事、呉市教育委員会学校教育課 小中一貫教育指導グループの本谷彰弘主査、重田由子指導主事を講師として招聘し、小中合同授業研究や研修会をもつことにより、少人数の特性を生かした学習指導の在り方、ICT機器の効果的な活用方法、児童生徒が主体的に取り組むことができる総合的な学習の時間や自らの思いを分かりやすく表現する児童生徒の育成を目指す総合的な学習の時間にするための「探究課題の設定」や「カリキュラムの見直しのポイント」などについて理論研修を行い、実践を積み重ねてきた。

また、公立高等学校の入試に「自己表現」が取り入れられた。「自己表現」を行うにあたり、中学校3年生の段階で「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」である「自己を認識する力」「自分の人生を選択する力」「表現する力」を身に付けさせておく必要がある。そのため、総合的な学習の時間等を使い、生徒のキャリア発達を促すため「体験」や「表現」活動に重点を置いた実践を積み上げてきた。令和4年度から、児童生徒の表現活動をしっかりと評価することで、成長をしっかりと見取り、積み上げていくための工夫の充実を目指している。そうした取組の一部として、小中で1分間スピーチを実施し、自己表現の評価の観点をもとにした評価を行っている。このような取組を通して、児童生徒1人1人の成果・課題が分かりやすくなり、さまざまな指導の場面にも生かすことができると考えている。今年度もこうした取組を引き続き行い、「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」を身に付けさせていく必要がある。

また、昨年度は、全ての子どもが「分かる・できる」ための工夫の充実をすることに重点をおき、授業研究や研修を行った。指導案に工夫の具体を記載する欄を設けるなど、その充実を目指した。また、小中ともに帯タイムの活用や家庭学習でキュビナを利用する等して個別最適な学習の充実に繋げてきた。「ICTの活用は学力向上につながっている」と答える児童生徒が増加するなど、ICTの活用を肯定的に捉えている児童生徒が多いことから、今後も継続した取組を行っていきたい。

全国学力・学習状況調査の分析等から、本中学校区の児童生徒に次のような課題が明らかになった。

- ① 文脈に即して漢字を正しく書くこと（国語科）
- ② 数と式、図形、関数、データの活用の各領域における既習の知識が十分定着していないこと（算数・数学科）

これらのことから、今年度は、少人数の特性を活かし、ICT機器の効果的な活用や個別最適な学びの推進、個を大切にしたい支援の充実、小中合同行事や地域との交流、異学年の関わり等により、論理的思考力、自らの思いを表現する力、自己肯定感の育成を目指し、研究を進めていきたい。

(3) 研究仮説

- 全ての子どもが「分かる・できる」ための工夫をしながら、少人数の特性を生かした、個々の生徒に寄り添った授業改善を進めることで、一人一人が主体的に深く学び、自分の思いを表現できるようになるであろう。
- ICT機器の効果的な活用や個別最適な学びの推進が、基礎学力の定着、論理的思考力や自らの思いを表現する力の育成につながり、それにより確かな学力を身に付けさせることができるであろう。
- 「自己表現」を見越した取組を小中9年間通して行うことで、「15歳で身に付けさせたい力」の確かな育成につながるであろう。
- 小中合同行事や地域との交流、異学年の関わり合いの場をもち、達成感を味わわせることにより、自己肯定感を高め、自信をもって意欲的・主体的に活動できるようになるであろう。
- 相談窓口の周知や小中での生徒指導連携、各校での「教育相談」の充実等、児童生徒が相談しやすい雰囲気醸成と児童生徒の状況を共有したり、支援の具体を検討したりする場の充実を行えば、一人一人の実態や思いに寄り添った個に応じた支援の充実ができ、学校が楽しい、学校は自分の「居場所」だと感じる児童生徒が増加するであろう。

5 研究内容

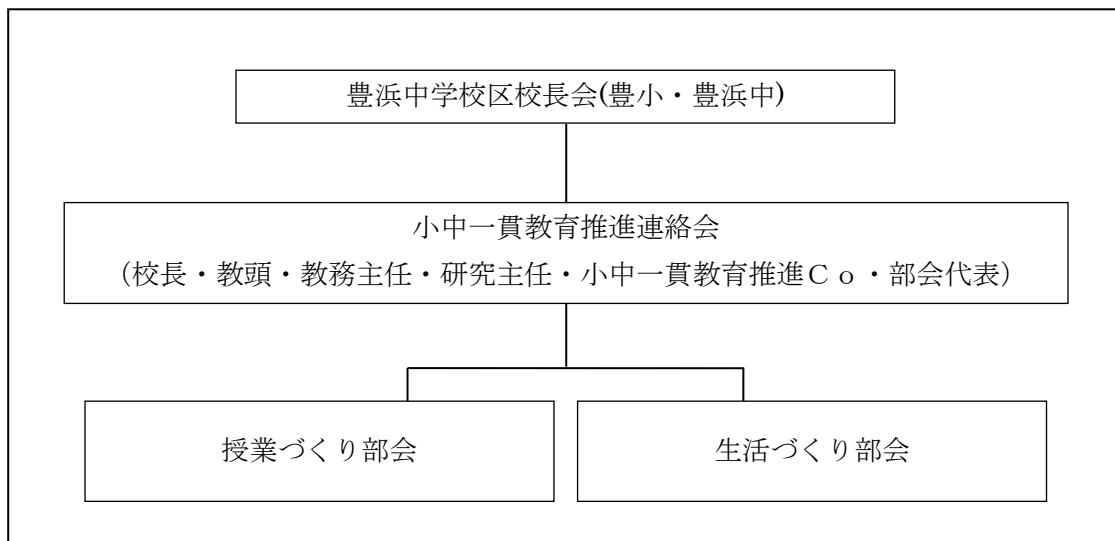
- (1) 学力調査等、児童生徒の個々の状況に焦点を当てた分析を行い、児童生徒の課題を明らかにする。
- (2) 「特別支援教育の視点」を取り入れた工夫の充実を図るための小中合同研修を企画し、取組の充実を図るとともに、スモールステップの目標設定を行い評価する等、肯定的な評価（自己評価、他者評価、相互評価）の場を増やす。
- (3) 小中全ての教員が「共通」して取り組む授業改善の視点（重点：「聴く（聴かせる）・関わる・振り返る（・確認する）」、「子どもの問い」を生かす、「思考を促す発問」を取り入れる等）を明確にする。
- (4) 少人数学級における、個々の児童生徒に寄り添い向き合った授業改善（個別最適な学び）を進める。子どもの具体的な姿を思い浮かべながら、児童生徒理解に基づいた授業づくりを行うとともに、子どもの具体的な姿を基にした協議を取り入れる。
- (5) 小規模校の特色を生かし、児童生徒の望ましい人間関係を築き、自己肯定感の向上を図るために、小中合同行事や地域との交流、異学年の関わり合い等を企画する。
- (6) 「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」を見据え、小中9年間通した取組（1分間スピーチ等）を行い評価することで児童生徒の課題を明らかにし、指導していく。
- (7) 総合的な学習の時間等を使い、児童生徒の「キャリア発達」を促すため「体験」や「表現」活動に重点を置いた実践を系統的に実施する。

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 確かな学力を身に付けることができたか	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査等の結果（全国学力・学習状況調査より） 単元末テスト（小）の通過率，実力試験（中）の正答率 児童生徒等のアンケートの結果 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の正答率（全国平均との差） 算数・数学科の正答率（全国平均との差） 算数・国語科の通過率が80%の児童の割合（小） 実力試験（5教科平均）の正答率（中） 「授業がよく分かります」答えた児童生徒の割合 「『やりなさい』と言われてなくても、自分から進んで学習することがある」と答える児童生徒の割合 「将来の夢や目標をもっています」と答える児童生徒の割合 	国語科 小 -13.2% 中 + 0.2% 算数・数学科 小 - 3.5% 中 +10.0% 算数 81% 国語 86% 中 - 4.4P 小 ——% 中 81.8% 小 76.0% 中 66.7% 小 85.0% 中 75.8%	国語科 小 + 5% 中 + 3% 算数・数学科 小 + 5% 中 + 8% 算数 80% 国語 80% 中 -2 P 小 90% 中 75% 小 80% 中 70% 小 90% 中 80%
② 自らの思いを表現することができたか	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒等のアンケートの結果 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業では、自らの考えや理由を相手に分かりやすく伝えるようにしています」と答える児童生徒の割合 	小 ——% 中 90.9%	小 85% 中 85%
③ 自己肯定感を高め、自信をもって意欲的・主体的に活動できたか	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒等のアンケートの結果 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分にはよいところがある」と答える児童生徒の割合 「自分のよさはまわりの人から認められていると思う」と答える児童生徒の割合 「学校に通うのは楽しいです」と答える児童生徒の割合 	小 62.0% 中 66.7% 小 ——% 中 57.6% 小 ——% 中 93.9%	小 70% 中 67% 小 70% 中 58% 小 90% 中 95%

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等

(中→小)

国語科	第5・6学年
社会科	第5・6学年
算数科	第5・6学年
理科	第5・6学年
図画工作科	第5・6学年
体育科	第5・6学年
外国語科	第5・6学年

(小→中)

なし

イ 小学校教科担任制等

なし

8 推進計画

月 日	内容
4月15日(月)	小中一貫教育推進連絡会① (推進体制, 日程調整, 指導案様式検討, 総会資料検討等)
5月7日(火)	豊浜中学校区小中一貫教育総会①・専門部会① (新会員紹介, 部会構成の確認, 基本的な取組の確認等 生活づくり: 小中合同運動会, 小中合同防災学習の打ち合わせ 授業づくり: 推進計画の検証について等)
5月18日(土)	小中合同運動会
5月21日(火)	小中一貫教育推進連絡会② (各専門部会の内容報告, 小中一貫合同授業研の流れと役割分担の確認)
5月27日(月)	小中合同防災教室
6月10日(月)	小中一貫合同授業研①(小:算数)
7月8日(月)	専門部会② (取組の内容や進捗状況の確認 生活づくり: 学校アンケートの結果の分析, 花プレゼントについて)
7月24日(水)	小中一貫教育推進連絡会③ (各専門部会の内容報告, 学習サポート研修の役割分担の確認)
7~8月	敬老会に向けての取組(花プレゼント)
8月中	小中一貫合同研修(県教育センター学校(団体)サポート)〔特別支援教育〕
8月26日(月)	専門部会③ (取組の内容や進捗状況の確認 生活づくり: 花プレゼントの実践交流 授業づくり: 全国学力状況調査の分析)
9月初旬	花プレゼントで作成したものを小中合同で代表者が渡しに行く。
9月5日(木)	小中一貫教育推進連絡会④ (各専門部会の内容報告, 小中一貫合同授業研の流れと役割の確認)
10月中	小中一貫合同授業研②(中:総合)
11月中	小中一貫合同授業研③(小:総合)
11月29日(金)	専門部会④ (共通: 取組の内容や進捗状況の確認 生活づくり: 来年度のアンケート項目について検討)
1月9日(木)	専門部会⑤ (共通: 本年度のまとめ, 来年度に向けて 生活づくり: 学校アンケートの結果の分析)
1月20日(月)	小中一貫教育推進連絡会⑤ (各専門部会の内容報告, 小中一貫合同総会に向けて)
1月27日(月)	小中一貫教育推進連絡会⑥ (小中一貫合同総会の準備, 来年度の計画)
2月27日(木)	豊浜中学校区小中一貫教育総会②(活動報告, 来年度に向けて)

9 その他

- ・ 小中一貫だより(年2回発行予定)

※ 研究構想図, カリキュラムマップを添付する。